工場ルポ

## 電機・OA機器向け加工に強み

# 根津鋼材 須賀川事業所

## ソフト面で差別化推進

大手コイルセンター、根津鋼材（本社＝東京都荒川区、根津訓光社長）の須賀川事業所は福島県の中央、郡山市の南側に接する須賀川市に位置する。1981年に同社の2番目の生産拠点として開設。以来、東北地区を中心に販路開拓を進め、現在は東北全域のほか、新潟、北関東まで広範囲をカバーする主力拠点に成長している。高品質・低コストを徹底追求し、顧客ニーズに応える須賀川事業所を訪れた。

同事業所は電機・OA機器向けの加工を得意としており、加工量全体の8割を占める。その他は建材、板金が1割ずつで、自動車向けは同一市内に位置する同社の長沼事業所に集約している。加工設備は大型スリッター、大型レベラー、中型スリッター、小型スリッターが1基ずつとミニレベラーが2基、シャーリング機が3基。足元の加工量は月間4000㌧で推移しており、稼働率は70％強。

取扱品種は電機・OA機器を主力としているだけに表面処理鋼板が8割と圧倒的に多い。うち電機亜鉛めっき鋼板が7割。酸洗から冷延、溶融亜鉛めっき、カラー鋼板まで手掛けているが、熱延黒皮はスケールの付着を避けるため加工していない。納入先での次工程はプレス加工が多くほこりの付着による打痕を防ぐ必要があることから、品質管理には細心の注意を払う。

根津鋼材は自社にシステム開発部門を持つ強みを生かし、加工ラインの自動化・見える化を進め、品質管理に役立ている。代表的な機能がメーン操作盤に設置された2つのモニター。右側は「お客さま仕様管理システム」を表示するもので、客先ごとに異なる寸法精度の許容範囲や梱包方法など、個別の仕様を細かく確認できる。

左側は「クレーム管理システム」用で、過去に納入先からのクレームが発生したことがある場合、いつ、どのような内容だったかを発生した鋼材の品種、規格、サイズ、原因、対策まで詳細に示すことで再発防止の徹底を図る。両システムとも生産系基幹システムと連動しており、手を介さずとも自動で表示されるため、作業の流れを止めることがなく、段取り時間の短縮につながる。

製造業の空洞化が進行し、顧客からの受注は小ロット・短納期化する一方だが、求められる品質基準はむしろ高まる傾向にある。要求をクリアするために個社にのしかかる負担は決して小さくない、受け止め方によっては、差別化につながる非価格競争力として、前向きにとらえることもできる。

同社では全拠点で結露防止用の扇風機を工場の天井や壁に数十台ずつ設置しており、春先や初冬の結露が出やすい時期に室温が上昇すると、自動で運転する。加工ラインは防塵シートを完備。スリッターラインには裏面検査カメラを4台を導入し、モニター監視との二重チェックで不良品の出荷を防ぐ。検査箇所には通常の照明ではなく、不具合を見つけやすい青色のLEDライトで照らすなど細部まで工夫を凝らす。

異材の加工や入出荷防止にも万全を期す。母材入荷に際し、事前に発行された入庫リストと母材未チェックリストに基づいて入荷データを照合。入庫後は原則的に権限者による現品確認を行い、その後も工程ごとに承認を必要とする。在庫はバーコードを用いた置場管理を運用し、加工時の異材加工を防ぐほか、加工段階でも寸法精度を検査する際にノギスで測ったデータを無線でシステムに送り、加工指示内容と照合するなど、何重にもわたり照合・確認を繰り返す〝水際作戦〟を展開。同システムの運用後は異材出荷ゼロを継続している。

安全対策にもぬかりはない。加工設備は人が立ち入る隙間がないほど、安全柵で完全に覆われている。柵は白色に塗られ、開閉部だけ赤に塗り分けられており、万が一、誤って開けても自動的にラインが停止する。

「レベラーやスリッター本体といったハード面では他社との違いを見いだしにくいが、効率化設備の導入やシステム構築など、ソフト面では差別化の余地はある」（永山良久東北事業部長兼須賀川事業所長）。今期は生産性向上を目的にスリッター入側のコイルカーを増やし、段取り作業の効率化・省力化を図る。すでにレベラーにはコイルカーが12台も設置され、その日の午前中に加工する母材を一挙にセットすることも可能としている。

今後の課題は新規分野の開拓。建材や太陽光などをターゲットに高耐食性の溶融めっき鋼板の取り扱いを増やすほか、自動車関連の需要増も見込み、東北事業部として、13年8月期に加工量10％増を目指す。「お客様のニーズに最適な金属を選択し、スピードとコスト低減で貢献する」（同）。主要仕入先の新日鉄住金東北支店とは2カ月に1回勉強会を開催し、薄板以外にも特殊鋼やステンレス、条鋼などの知識・情報を幅広く収集し、アンテナを高く掲げる。直近では炭素鋼の販売を増やすなど、成果は着実に表れている。

（音成　泰文）

㊤安全柵に囲まれたスリッターライン
㊨コイルカーを多用し段取り効率化